

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

プロパガンダ写真誌を分析し 政府の戦争宣伝を明らかにする

『写真週報』とその時代 (上)
戦時日本の国民生活』

『写真週報』とその時代 (下)
戦時日本の国防・対外意識』

玉井清 (法学部教授) 編著
慶應義塾大学出版会 / 各3672円 (2017年7月)



「戦争に国民を動員せよ」。戦時下の政府が、戦争遂行のプロパガンダを国民にわかりやすくアピールする目的で発行したのが『写真週報』。日中戦争勃発約半年後の1938年2月から終戦間際の45年7月まで続き、膨大な写真が掲載された。イラストや漫画も多数使われ、「ぜいたくは敵だ」など、戦時下の国民の果たすべき役割が、わかりやすく明らいたって示されている。本書2冊は、その『写真週報』を徹底的に分析し、当時の政府の宣伝戦がどのように展開されたのかを明らかにした労作。徐々に戦争に巻き込まれていく国民の姿が、透けて見えてくる。

教職員執筆の最新刊

●中野冠 (システムデザイン・マネジメント研究科教授) 著

『いま世界ではトヨタ生産方式がどのように進化しているのか——取り残される日本のものづくり』日刊工業新聞社 / 1728円 (2017年6月)

●石田英夫 (名誉教授) 著

『人こそをかしけれ——ある経営学者の回想』サノックス / 1620円 (2017年7月)

●小川原正道 (法学部教授) 著

『西南戦争と自由民権』慶應義塾大学出版会 / 3456円 (2017年7月)

●前野隆司 (システムデザイン・マネジメント研究科教授) 著

『実践 ポジティブ心理学——幸せのサイエンス』PHP新書 / 929円 (2017年8月)

●ウィリアム・マリガン著、赤木完爾 (法学部教授) ほか訳

『第一次世界大戦への道——破局は避けられなかったのか』慶應義塾大学出版会 / 3456円 (2017年8月)

●岩田健著、近藤由紀彦 (横浜初等部教諭)、山内慶太 (看護医療学部教授) ほか編

『岩田健 小学校劇脚本集——指導者の劇作り入門』慶應義塾大学出版会 / 3240円 (2017年9月)

慶應義塾この一冊

『小泉信三エッセイ選2 私と福澤諭吉』

小泉信三著、都倉武之 (福澤研究センター准教授)、松永浩気 (幼稚舎教諭) ほか編
慶應義塾大学出版会 / 3024円 (2017年1月)



義塾を象徴する名塾長であり、今上天皇の皇太子時代の教育係だった小泉信三は、名文家としても知られる。戦死した息子の思い出を私家版として綴り、没後の1966年に出版された『海軍主計大尉小泉信吉』はベストセラーになった。本書は、その小泉の珠玉のエッセイ選集第2弾。父も塾長であった小泉が、「福澤先生と私」「福澤諭吉を語る」など、子供時代から知っている福澤について尊敬と親愛の念を込めて書いている。小泉信三の気品ある文章にぜひふれてほしい。